

花木枝物の紅葉促進に関する試験

第1報 環状はく皮および針金処理について

吉田俊一・諸富保司 (大分県温泉熱利用花き園芸試験場)

Shunichi YOSHIDA and Yasushi MOROTOMI : Studies on the Accelerating of Autumnal Tints for Cutting Branch commercially in Ornamental Trees and Shrubs.

1. Effects of Ringing Treatment or Binding Branch with Wire

ユキヤナギをはじめとする花木枝物の紅葉促進に及ぼす環状はく皮等の処理法、および処理時期の効果を検討したので、その結果を報告する。

1. 材料および方法

供試樹種(品種)はユキヤナギ('蒲田早生', '在来小葉種'), コデマリ('在来種'), ツツジ('オオバクマノ'), チョウセンレンギョウを用いた。ユキヤナギとコデマリについては、2~3月に株刈をした後萌芽してきた当年生枝を供試した。ツツジは3~4年生枝を供試し、チョウセンレンギョウは2年生枝を供試した。試験圃場は標高約400mの別府市内成の生産者圃場を用いた。環状はく皮および針金処理の処理時期は1983年7月20日、8月10日、9月1日、9月20日とした。ただし、ユキヤナギの'在来小葉種'のみは処理時期を8月25日、9月10日、9月20日とした。処理に当たり環状はく皮区はベンチを使用して、供試枝の基部を幅1.5cm程度環状はく皮した。針金区は18~20番の針金を使用して、供試枝の基部を2回まわし、ベンチで適度にしめた。区制は1区5本(枝数)の1区制とした。

なお、紅葉発現の調査に当たり、紅葉程度をわずかに紅葉始め、紅葉始め、紅葉(小)、紅葉(中)、紅葉(やや大)、紅葉(大)と段階分けして表現することにした。また、全く紅葉が始まっていない緑の状態のものは緑と表現し、緑の濃いものを濃緑と表現した。紅葉はまだ始まっていないが、緑の状態より黄化したものを黄緑と表現した。

切枝適期を明らかにするために、樹種で多少こととなるが、紅葉程度が中ぐらいで観賞に値するようになったもの、つまり紅葉(中)の段階になったものを切枝開始時期とした。

2. 結果および考察

供試樹種の処理方法と処理時期による切枝適期は第1表と第2表に示すとおりである。

1) ユキヤナギ、コデマリおよびツツジの紅葉促進に環状はく皮が有効であり、ユキヤナギ、コデマリでは針金処理も同様に有効であった。いずれも処理時期が早いほど早く切枝可能になった。また、処理によって紅葉も鮮明になり品質も向上した。

2) ユキヤナギのうち'蒲田早生'は7月20日環状はく皮または針金処理で10月11日にほとんど切枝可能になり、'在来小葉種'は8月25日環状はく皮処理で9月30日に1部が、10月11日にすべてが切枝可能になった。切枝の品質や紅葉の状態からして、'在来小葉種'のほうが実用性が高い。

3) コデマリの'在来種'は7月20日環状はく皮または針金処理で11月1日に切枝可能になった。

4) ツツジの'オオバクマノ'は7月20日環状はく皮処理で10月11日に約50%が、10月20日にすべてが切枝可能になった。

5) チョウセンレンギョウの紅葉促進に環状はく皮と針金処理が有効であった。しかし、同時に落葉が促進された。針金処理のほうが落葉が少なく実用的である。落葉の多かった環状はく皮処理は別に促成する場合の摘葉に利用することができる。

6) コデマリの環状はく皮を行ったものは無処理に比べると水揚げがよくなる傾向がみられた。

以上のことより、環状はく皮または針金処理を行えば枝物の紅葉促進ができることが判明した。

第1表 ユキヤナギ:'蒲田早生', コデマリ, ツツジ およびチョウセンレンギョウ紅葉切枝適期

処理時期 区分	切 枝 適 期				
	ユキヤナギ 蒲田早生	コデマリ 在来種	ツツジ オオバクマノ	チョウセン レンギョウ	
7月20日	A区	10月11日 ~11月1日	11月1日 ~11月10日	10月11日(C ₂) ~11月10日	切枝不可能(D ₃) 10月20日(C ₁ , D ₁) ~11月10日(D ₂)
	B区	10. 11 ~11. 1	11. 1 ~11. 10	—	
8月10日	A区	10. 11(C ₁) ~11. 1	11. 1(C ₁) ~11. 10	10. 11(C ₁) ~11. 10	10. 11(D ₁) ~11. 10(D ₂)
	B区	10. 11(C ₂) ~11. 1	11. 1 ~11. 10	—	10. 11(C ₁) ~11. 10(D ₁)
9月1日	A区	10. 20(C ₁) ~11. 1	11. 1(C ₁) ~11. 10	10. 20(C ₁) ~11. 10	10. 11(C ₁ , D ₁) ~11. 10(D ₂)
	B区	10. 20(C ₁) ~11. 1	11. 1(C ₁) ~11. 10	—	11. 1 ~11. 10(D ₁)
9月20日	A区	11. 1(C ₂) ~11. 10	11. 1(C ₁) ~11. 10	10. 10(C ₁) ~11. 10	10. 11(C ₁) ~11. 1(D ₂)
	B区	11. 1(C ₁) ~11. 10	11. 10以降	—	11. 1(C ₁) ~11. 10(D ₁)
無処理区	11. 10(C ₁) 以降落葉が 始まるまで	切枝不可能 (11.10でも 紅葉不十分)	切枝不可能 (11.10でも紅 葉不十分)	—	11. 10(C ₁)以 降落葉が始ま るまで
無処理区 (向陽地)	—	—	11. 1 ~11. 10	—	—

- 注) 1. A区は環状はく皮処理区、B区は針金処理区を示す。
2. (C₁)は()の前の月日において、1部が切枝可能ということ、(C₂)は()の前の月日において約50%が切枝可能ということを示す。
3. (D₁)は()の前の月日において1部落葉あり、(D₂)は()の前の月日において落葉やや多く切枝出ない枝あり、(D₃)は落葉非常に多くほとんど切枝不可能。
4. 切枝適期の開始は紅葉が中程度かそれ以上進んだときとした。

第2表 ユキヤナギ:'在来小葉種'の紅葉切枝適期

処理時期区分	切 枝 適 期	備 考
8月25日 A区	9月30日(C ₁)~11月1日	11月10日までおくると紅葉が非常に鮮明になるが、落葉が始まるため切枝は不可能になる。
9月10日 A区	10. 11 ~ 11. 1	
9月20日 A区	11. 1 ~ 11. 10	
無処理区	11. 10 以降落葉が始まる前まで	切枝は不可能になる。

注) 第1表と同様